イワナの人工産卵床づくりに関する「あおもりの川を愛する会」の活動経緯

平成 20 年 11 月 24 日

1. 平成 18 年 1 月 30 日
   財団法人河川環境管理財団に対して、「奥入瀬渓流の支川・蔦川を対象として、イワナが安心して産卵できる川づくりをテーマに、地域の住民、河川管理者及び学識経験者が、水質･生態調査、勉強会、意見交換会などを実施する」活動への助成金（河川整備基金）を申請。5 月 29 日に 70 万円を助成する旨の通知。
2. 8 月 19 日
   関野哲雄さん（青森県水産部長や浅虫水族館長などを歴任された方）に同行していただき、蔦川下流とその枝沢などについて予備調査を行う(8 名参加)。
3. 9 月 2 日（第 4 回蔦川清掃の日）
   清掃活動にあわせて、午前中に、前回の予備調査を踏まえ、再度、現地踏査を実施。関野哲雄さん、当時の十和田湖町漁業協同組合長の野月　誠さん、県河川砂防課長の田村義行さん、あおもりの川を愛する会会長の佐々木幹夫さんら 19 名が参加。
   午後、関野さんを講師に、イワナについての勉強会を開催。約 100 名の方が、イワナの分類上の位置、サケ科魚類の特徴、イワナの生態などを初めて聞く。
4. 11 月 7 日
   関野哲雄さん、青森県水産総合研究センター内水面研究所調査普及部長の吉田由孝さん、主任研究員の長崎勝康さん、あおもりの川を愛する会事務局（以下、「事務局」と言います）4 名の計 7 名で、イワナの産卵状況確認のための調査を実施。右岸側の仮称枝沢 1 号〈流域面積 0.68km^2〉と蔦川本流〈37.77km^2〉の 2 箇所で確認。

5. 平成 19 年 1 月 26 日
   「イワナが安心して産卵できる川づくり」事業に関する意見交換会を開催。
   ・「事務局」が事業の経過報告、8 号床固工、6 号帯工などの現状についての話題を提供。
   ・十和田湖町漁業協同組合が組合活動を紹介。
   ・内水面研究所の長崎主任研究員が「易国間川の人工産卵床の造成について」を報告。
   参加団体は、三八上北森林管理署、内水面研究所、県河川砂防課、十和田県土整備事務所、十和田湖町漁業協同組合、おいらせ知の会、あおもりの

川を愛する会などで、十和田自然保護官事務所と十和田市焼山町会は欠席（関野さんを含め 20 名が出席）。

6. 8 月 3 日

佐々木幹夫会長が、田村義行上北地域県民局地域整備部長に対し、「蔦川下流部に設置されている床固工の魚道の機能回復などについて」陳情し、魚道などの現状調査と対応策の検討を要望(会員 7 名参加)。

7. 8 月 24 日

人工産卵床の設置場所について、右岸側の小渓流・蔦滝沢〈流域面積 2.42km²〉と左岸側の小渓流・仮称枝沢 2 号〈流域面積 0.42km²〉の 2 箇所を事前調査。

内水面研究所長の須川人志さん、主任研究員の長崎勝康さん、奥入瀬川漁業協同組合事務局剣吉葉子さん、地域整備部河川砂防整備課副課長の伊藤文二さん、同河川砂防管理課主幹の大崎順一さん、「事務局」5 名　計 10 名が参加。

8. 9 月 1 日(第 5 回蔦川清掃の日)
清掃活動にあわせて、イワナの産卵床づくりに必要な砂利と栗石を蔦川(出会い橋下流右岸)から採取。
奥入瀬川漁業協同組合長の野月　誠さん、同事務局剣吉葉子さん、県河川砂防課河川開発 GL の秋村純一さん、同砂防 GL の上野信雪さん、主幹工藤伸一さん、上北地域県民局地域整備部河川砂防管理課副課長の工藤康正さん、同河川砂防整備課副課長の伊藤文二さん、川を愛する会会員、「事務局」など 18 名参加。

9. 10 月 18 日
蔦川の左岸側の小渓流（仮称枝沢 2 号）に、人工産卵床を 1 箇所設置。
関野哲雄さん、内水面研究所主任研究員の長崎勝康さん、漁業協同組合長の野月　誠さん、県河川砂防課企画調査グループ主幹の田辺順次さん、砂防グループ主幹の工藤伸一さん、上北地域整備部河川砂防管理課長の兼平喜代二さん、副課長の工藤康正さん、同河川砂防整備課副課長の伊藤文二さん、「事務局」など 20 名参加。

10.　11 月 7 日

前年と同じ期日を選び、「事務局」で産卵状況を観察したが、「受精卵」を確認できず。以後、2 回にわたり観察したが、同様の結果に終わる。

11.　平成 20 年 9 月 6 日（第 6 回蔦川清掃の日）

清掃活動にあわせて、前年度と同じ場所から砂利と栗石を採取。

参加者は約 30 名。

12.　10 月 7 日

平成 19 年 10 月 18 日に設置した蔦川左岸側の枝沢 2 号の同じ場所とその直下流の計 2 箇所に人工産卵床を設置。造り方は前年と全く同様。

内水面研究所長の須川人志さん、漁業協同組合長の野月　誠さんなど 22 名参加。

作業前の説明

場所の探索１

場所の探索２

幅確認

長さ確認

深さ確認

砂利運搬

作業状況

砂利敷き

砂利敷き

完成１

完成２

完成３

完成４

記念撮影

13. 10 月 28 日
「事務局」で産卵状況を観察したが、「受精卵」を確認できず。
14. 11 月 10 日
「事務局」3 名で、2 箇所のうちの上流側の産卵床で複数の「受精卵」を確認して写真撮影。

（註）　このメモは、平成 20 年 11 月 25 日、上北地域整備部会議室で開催された「蔦川魚道に関する意見交換会」において、当会がそれまでに蔦川流域で行ってきたイワナの人工産卵床づくりの活動経緯を報告するために作成したものである。